



ARCHITECTURE REVIEW



建築見て歩記 その79

鳥取県の大山の麓にある「植田正治写真美術館」です。1995年に高松伸の設計で開館しました。写真家の代表作からインスパイアされた外観は連続する箱とそれを包み込むような円弧上の自立壁で構成されています。一つの箱はまるごとカメラオブスキュラで、逆さの大山を映しています。今もしっかりメンテナンスされ、広々とした場所に美しく建っています。

CURRENTLY WORKS



木造建築 軸組の美

現在、施工進行中の調剤薬局です。一部が二階建てで、待合空間部分の天井高さを3.6mとする計画ですが、組み上がった木造の軸組が、美しくまた迫力のある場となっています。最終的には、これらのすべては隠蔽されることとなります。在来工法の木造建築すべてに言えることですがこの「素」の状態の、秩序だった美しさを留めたいと思えてなりません。

PRIVATE TOPICS



太田のアート探訪記 その19

前回と同じ宿泊施設「べにや無可有」の庭にある、宮島達男の作品です。宮島氏は、デジタル数字を様々に扱うアーティストです。ここでは建築の設計者、竹山聖と協働し、木製の連続フレームに透明液晶板をはめ込み発光する数字が重なったり、ランダムに点滅したりします。写真は昼間ですが、夜に鑑賞すると、背景がなくなり、数字のダンスが見られます。

EDITORIAL NOTE

2月は、4の倍数の年には閏年で1日多くなります。地球の自転とズレが出てくるからですが、さらに100の倍数で400で割り切れない年は閏年ではありません。次回は2100年ですが、生きていませんね…閏秒もあり、45年間に27回の+1秒がありました。次回は地球の自転が速まって予測不能だそうです。

編集担当：太田・藤原、監修：岡島